

平成17年度 一般財源研究費傾斜的研究費(全学分)研究報告書

研究テーマ [②教育改善研究]

研究課題名	インターンシップ プレースメントに当たって能力資質向上の取り組みとその評価の方法についての研究		
研究者または研究代表者名	所属部局名		職名
金子 誠喜	健康福祉学部		教授
研究分担者名	部局名・所属研究機関名		職名
菊池恵美子	健康福祉学部 作業療法学科		教授
横井 郁子	健康福祉学部 看護学科		准教授
山田 拓実	健康福祉学部 理学療法学科		准教授
井上 薫	健康福祉学部 作業療法学科		准教授
妹尾 淳史	健康福祉学部 放射線学科		准教授
谷村 厚子	健康福祉学部 作業療法学科		研究員
研究実績の概要			
本研究では、健康福祉学部の4学科、すなわち、看護学科、理学療法学科、作業療法学科、放射線学科それぞれが、医療職教育での実践能力を適切、客観的に評価し、教育の成果を高めようとしている臨床能力試験を通して、インターンシップへの配置が適切に行えることを目的とした。その基盤として実践的なモデル患者を導入し、学生の学内における実技試験で評価精度を高めることを主に研究を実施した。それぞれの学科の研究担当者が、各学科教員の多くの協力を得て、さらにモデル患者の協力の下、各学科での学生のアンケートなどの評価から認められるように高い評価を得て、試験を実施することができた。この試験結果を直ちに臨床・臨地実習のプレースメントに反映することは困難であったが、学生は臨床・臨地の場で、このような経験が無いままに学習を進めるより心理的圧迫が軽減されたものと考えられた。しかしながら、学生の臨床・臨地実習の成績にこの取り組みが有効な成果を示したかについては不明である。 さらに、この取り組みでは各学科の教員が能力試験の実施にあたり、相互理解を深めることができ、また、学生の学習での問題点を学科全体として理解することに有益であった。 この研究により、臨床実習の練習環境、そして、臨床能力試験の進め方、また、その試験のシナリオを行ったが、今後それらの向上を図ることで、研究実績を有効に活用できるものと考えられる。			

研究発表 [雑誌論文発表、図書、学会発表等]			
著者（講演者）	論文題目（発表題目）	発表誌（発表大会名）	年月
研究参加者全員	報告書「インターンシップ プレースメントに当たって能力 資質向上の取り組みとその 評価の方法についての研究」		平成18年3月
Kaoru Inoue, Atsuko Tanimura, Takashi Yamada, Emiko Kikuchi, Seiki Kaneko, Takumi Yamada, Yuko Yokoi, Atsushi Senoo	Introducing PBL with the Simu lated Patient for a Course of Occupational Therapy - Part 1; from the Facilitator's Poin t of View -	6 th Asian-Pacific Confere nce on PBL	平成18年5月
Atsuko Tanimura, K aoru Inoue, Emiko Kikuchi, Takashi Y amada, Seiki Kaneko, Takumi Yamada, Yuko Yokoi, Atsush i Senoo	Introducing PBL with the Simu lated Patient for a Course of Occupational Therapy - Part 2; from the Student's Point o f View	6 th Asian-Pacific Confere nce on PBL	平成18年5月